

※字数指定のある問いでは、特にことわりのない限り、句読点等の符号も一字分と数えます。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈問題文中の※は、終わりに注があります。また、問題文は一部省略しているところ、一部書きかえているところがあります。〉

雑草の成功戦略を一言でいえば「逆境×変化×多様性」であるだろうと私は考えている。それでは、逆境と変化と多様性という三つの要素について、それぞれ見ていくことにしよう。「逆境」とは「逆境をプラスに転じる力」である。

たとえば、踏まれながら生きるとは、多くの人が雑草に持つイメージだろう。中でもオオバコという雑草の戦略は、秀逸である。オオバコは、舗装されていない道路やグラウンドなど、踏まれやすい場所によく生えている。じつは、オオバコは踏まれやすい場所に好んで生えているのである。

オオバコは競争に弱い植物なので、他の植物が生えるような場所には生息できない。□ 1、他の強い植物が生えることのできないような、踏まれる場所を選んで生えているのである。

オオバコは踏まれに強い構造を持っている。

オオバコの葉は、とても柔らかい。硬い葉は、踏まれた衝撃で傷つきやすいが、柔らかい葉で衝撃を吸収するようになっているのである。しかし、柔らかいだけの葉では、踏まれたときにちぎれてしまう。そこで、オオバコは葉の中に硬い筋を持っている。このように、<sup>②</sup>柔らかさと硬さを併せ持つところが、オオバコが踏まれに強い秘密である。

茎は、葉とは逆に外側が硬くなかなか切れない。しかし、茎の内側は柔らかいスポンジ状になっていて、とてもしなやかである。茎もまた硬さと柔らかさを併せ持つことによって、踏まれに強くなっているのである。

ヘルメットが、外は固いが中はクッションがあって柔らかいのと、まったく同じ構造なのである。

「柔よく剛を制す」という言葉がある。

見るからに強そうなものが強いとは限らない。柔らかく見えるものが強いことがあるかも知れないのである。  
昆虫学者として有名なファーブルは、じつは『ファーブル植物記』もしたためている。その植物記のなかで、ヨシとカシの木の物語が出てくる。

ヨシは水辺に生える細い草である。ヨシは突風に倒れそうになったカシの木にこう語りかける。カシはいかにも立派な大木だ。しかし、ヨシはカシに向かってこう語りかける。③

日本には「柳に風」ということわざがある。カシのような大木は頑強だが、強風が来たときには持ちこたえられずに折れてしまう。ところが、細くて弱そうに見える柳の枝は風になびいて折れることはない。弱そうに見えるヨシが、強い風で折れてしまったという話は聞かない。柔らかく外からの力をかわすことは、強情に力くらべをするよりもずっと強いのである。

柔らかいことが強いということは、若い読者の方にはわかりにくいかも知れない。正面から風を受け止めて、  
2  
負けないことこそが、本当の強さである。ヨシのように強い力になびくことは、ずるい生き方だと若い皆さんは思うことだろう。

しかし、風が吹くこともまた自然の節理である。風は風で吹き抜けなければならぬ。自然の力に逆らうよりも、自然に従って自分を活かすことが大切である。

この自然を受け入れられる「柔らかさこそ」が本当の強さなのである。

オオバコは、柔らかさと硬さを併せ持つて、踏まれに強い構造をしている。

しかし、オオバコのすごいところは、踏まれに対して強いというだけではない。

オオバコの種子は、雨などの水に濡れるとゼリー状の粘着液を出して膨張する。そして、人間の靴や動物の足にくっついて、種子が運ばれるようになってるのである。オオバコの学名は *Potamogeton*。これは、足の裏で運ぶという意味である。タンポポが風に乘せて種子を運ぶように、オオバコは踏まれることで、種子を運ぶのである。

よく、道に沿ってどこまでもオオバコが生えているようすを見かけるが、  
3  
、種子が車のタイヤなどについて広がっているからなのだ。

こうなると、オオバコにとって踏まれることは、耐えることでも、克服すべきことでもない。④  
もはや踏まれないと困るくらいまでに、踏まれることを利用しているのである。

「逆境をプラスに変える」というと、「物事を良い方向に考えよう」というポジティブシンキングを思い出す人もいない。

しかし、雑草の戦略は、そんな気休めのものではない。もっと具体的に、逆境を利用して成功するのである。

たとえば、雑草が生えるような場所は、草刈りされたり、耕されたりする。ふつうに考えれば、草刈りや耕起は、植物にとっては生存を危ぶまれるような大事件である。しかし、雑草は違う。草刈りや耕起をして、茎がちぎれちぎれに切断されてしまうと、ちぎれた断片の一つ一つが根を出し、新たな芽を出して再生する。つまり、ちぎれちぎれになったことによつて、雑草は増えてしまうのである。【A】

また、きれいに草むしりをしたつもりでも、しばらくすると、一斉に雑草が芽を出してくることもある。じつは、地面の下には、膨大な雑草の種子が芽を出すチャンスをおかっている。一般に種子は、暗いところで発芽をする性質を持っているものが多いが、雑草の種子は光が当たると芽を出すものが多い。【B】

草むしりをして、土がひっくり返されると、土の中に光が差し込む。光が当たるといことは、ライバルとなる他の雑草が取り除かれたという合図でもある。そのため、地面の下の雑草の種子は、チャンス到来とばかりに我先にと芽を出し始めるのである。【C】

草刈りや草むしりは、雑草を除去するための作業だから、雑草の生存にとっては逆境だが、雑草はそれを逆手に取つて、増殖してしまうのである。何というしつこい存在なのだろう。【D】

( 中 略 )

前に、日本タンポポが他の植物に先駆けて、花を咲かせることを紹介した。このように、小さな雑草の中には、春先に花を咲かせることで成功するものが多い。

しかし、春に花を咲かせるためには、必要なことがある。それは冬の間も葉を広げることである。春に花を咲かせ

る植物たちは、寒い冬の間も葉を広げている。そして、光合成で得た栄養分を、蓄えていくのだ。

寒い冬に、霜に当たりながら、葉を広げることは植物にとって簡単なことではない。本当は温かな土の中で種子で眠っていた方が、ずっと安全である。しかし、春になって地面の下で眠っていた種子たちが起きだすころには、冬の間も葉を広げていた小さな雑草たちは、蓄えた栄養分で一気に花を咲かせる。そして、他の植物が伸びる前に、さっさと種子を残してしまふのである。

まだ肌寒い中に花を咲かせている小さな野の花に、私たちは春の訪れを感じる。しかし、私たちに春の訪れを感じさせてくれる野の花たちは、必ず、冬の間も葉を広げていた者たちである。

これらの植物にとって、冬は耐える季節ではない。強い植物が土の中で眠っている冬という季節があるからこそ、彼らは花を咲かせ、成功することができる。

もし、一年中、暖かで快適な気候だったとしたら、小さな野の花たちが花を咲かせることはできなかったかも知れない。そうだとすれば、寒い冬は、春に咲く小さな野の花にとって、不可欠なものであるとも言える。そして、冬の寒さこそが成功のために味方なのである。

「ピンチはチャンス」という言葉がある。逆境を逆手に取って利用する雑草の成功を見れば、その言葉は説得力を持って私たちに響いてくることだろう。

ピンチとチャンスは同じ顔をしているのである。

生きていく限り、全ての生命は、何度となく困難な逆境に直面する。雑草は自ら逆境の多い場所を選んだ植物である。しかし、逆境のまったくない環境などあるのだろうか。雑草がこれだけ広くはびこっているのを見れば、自然界は逆境であふれていることがわかるだろう。

逆境に生きるのは雑草ばかりではない。私たちの人生にも逆境に出くわす場面は無数にある。そんな時、私たちは道ばたにひっそりと花をつける雑草の姿に、自らの人生を照らし合わせてセンチメンタルになるかもしれない。しかし、雑草は逆境にこそ生きる道を選んだ植物である。そして逆境に生きる知恵を進化させた植物である。

けっして演歌の歌詞のようにしおれそうになりながら耐えている訳でもないし、スポ根漫画の主人公のようにただ歯を

食いしばって頑張っているわけでもない。雑草の生き方はもともとたくましく、4 したたかなのである。

「逆境は敵ではない、味方である。」これこそが、雑草の成功戦略の真骨頂と言えるだろう。

幾多の逆境を乗り越えて雑草は生存の知恵を獲得し、驚異的な進化を成し遂げた。逆境こそが彼らを強くしたのである。そして、逆境によって強くなれるのは雑草ばかりでない。私たちもまた逆境を恐れないことできつと強くなれるはずなのである。

「ピンチはチャンス。」

ゆめゆめ逆境を恐れてはいけないのだ。

(稲垣栄洋 著『植物はなぜ動かないのか 弱くて強い植物のはなし』より)

※1 秀逸……ずばぬけてすぐれている様子。

※2 耕起……畑に種をまいたり、田に苗を植えたりする前に、土を掘り起こして耕すこと。

※3 スポ根漫画……一つのスポーツにひたすら打ち込み、努力を重ねる主人公の姿を描いた漫画。

※4 真骨頂……そのものが本来持っている姿。

問一 1 4 に入れるのに最も適当な語を、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二回以上使えません。

- |   |     |   |      |   |      |
|---|-----|---|------|---|------|
| ア | そこで | イ | それとも | ウ | それは  |
| エ | そして | オ | それでも | カ | それなら |

問二 ——— ①「オオバコは踏まれやすい場所に好んで生えているのである」とありますが、その理由の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 踏まれやすい場所は人通りが多く、オオバコが子孫を残すため受粉をするチャンスが増えるから。  
イ オオバコは他の植物よりも病気に弱いため、他の植物が生えるような場所には生息できないから。  
ウ オオバコの茎は外側が硬いため、踏まれてもすぐにまた立ち上がって成長することができるから。  
エ 自然界は弱肉強食なので、オオバコは他の植物が生えるところでは生存競争に負けてしまうから。

問三 ——— ②「柔らかさと硬さを併せ持っている」とありますが、「オオバコの葉」の、Ⅰ「柔らかさ」とⅡ「硬さ」には、それぞれどのような長所がありますか。問題文中の語句を用いて、それぞれ十五字以内で説明しなさい。

問四 ③ に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「あなたはなぜそんなに風を恐れているんだ。私と一緒に風と戦おう」  
イ 「私は吹く風になびいてしまう。あなたみたいに立っていられないよ」  
ウ 「私はあなたほど風が怖くない。折れないように身をかがめるからね」  
エ 「あなたは強い木じゃないか。まだ風に立ち向かう力は残っているよ」

問五 ——— ④「もはや踏まれないと困る」とありますが、オオバコが踏まれないと困るのはなぜですか。問題文中の語句を用いて、二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問六 問題文から次の一文がぬけています。この文を入れるか所として最も適当なものを、【A】～【D】の中から一つ選び、記号で答えなさい。

こうして、きれいに草取りをしたと思っても、それを合図にたくさんの雑草の種子が芽を出して、結果的に雑草が増えてしまうのである。

問七 ——— ⑤「冬の間に葉を広げていた」とありますが、こうすることで「小さな野の花」にとつてどのようなことが可能になりますか。その説明として適当でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 光合成をして、栄養分を貯めておくこと。
- イ 春になったら、すぐに花を咲かせること。
- ウ 他の植物が伸びる前に、子孫を残すこと。
- エ 温かな土の中で子孫を眠らせて守ること。

問八 ——— ⑥「雑草は逆境にこそ生きる道を選んだ植物である」とありますが、オオバコと同じ方法で逆境に「生きる道」を見つけて成功している例として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 医学部卒業後、不器用で医者は無理だと諦めた青年が、基礎医学の研究者に転向した結果、難病の治療につながる実現不可能と言われていた細胞を作製して、ノーベル賞を受賞したこと。
- イ 貧しい家に育った少年が、幼いうちから家計を助けるために毎日働きながらも自分が大好きな漫画を描き続け、世界的に有名なアニメーション監督になって、アカデミー賞を受賞したこと。
- ウ 五才から小説を書き始めた少女が、大人になっても、仕事をしながら十年に一作を完成させるような地道な努力を重ねて、史上最高齢で小説家デビューを果たし、芥川賞を受賞したこと。
- エ ホームラン王として国民の絶大な人気を得たプロ野球選手が、引退後は監督に就任し、優れた才能でチームを何度も優勝に導き、これまでの実績が評価されて、国民栄誉賞を受賞したこと。

問九 ——— 「逆境をプラスに転じる力」とありますが、この言葉と同じことを言っている他の部分を、問題文中から八字ちようどでぬき出して答えなさい。

問十 あなたは、問題文中の「カシ」のような生き方と「ヨシ」のような生き方のどちらがすぐれていると考えますか。どちらを選んだのかを明確にして、それがどのような生き方か説明しなさい。また、あなたが選んだ生き方の方がすぐれていると考える理由を、自分の経験を具体例としてあげながら自由に作文してください。そのような経験がどうしても自分自身に思い当たらなければ、人から聞いた話、本で読んだことなどを書いてかまいません。作文はできるだけ漢字も用い、正しくていいいな文字で書いて下さい。また、「です」「ます」で結ばなくてもかまいません。評価は、内容と表現の両面から行います。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題文中の※は、終わりに注があります。)

正月の箱根駅伝への初出場を目指し、大半が初心者である寛政大学陸上部員たちは白樺湖で合宿をしていた。メンバーは主将の四年生清瀬灰二(他の部員たちからは「ハイジ(さん)」とよばれている)と、一年生の天才ランナー蔵原走をはじめ、ニコチャン、ムサ、ユキ、キング、双子のジョータとジョージ、他二名の合計十名である。ところが、時を同じくして白樺湖で合宿をしていた箱根駅伝の常連校の東京体育大学(東体大)の部員たちと湖畔で出くわしてしまった。その東体大の陸上部員の中には一年生部員榊もいた。高校時代、蔵原走と榊は同じ強豪陸上部の同級生だった。しかし、蔵原走が高校三年の時、勝つために部員を厳しく管理する監督に反発し、暴力をふるったことが原因で、榊は目標にしていた高校生活最後の大会に出場できなくなってしまうという過去があった。

東体大の一年生たちは、榊を中心に、寛政大に対してこまごまとちよっかいをかけてきた。

湖畔の道を走っているときに、横一列に広がって進路妨害をする。集団で走を取り囲むように走り、プレッシャーをかける。監督や上級生の目を盗んで、あれこれとからかってくる。

走は、さして気にもしなかった。高校時代までの部活動や試合で、そんないやがらせには慣れっこになっていた。囲まれたら振りきってまえに出ればいいのだし、行く手を阻まれたら対向車線にはみでるようにして追い越せばいい。

だが、竹青荘の住人のほとんどは、初心者にも毛が生えたようなものだ。走るときの駆け引きを知らない。東体大の一年生たちのいやがらせに、すっかり萎縮し、ペースを乱されがちになってしまった。

「おとなげないことをする」

最初は様子を見ていた清瀬も、ついに黙っていられなくなったらしい。夕方の※<sup>2</sup>ジョッグを終えた時点で、抗議をしにいった。

東体大の一年生ばかりが二十人ほど、土産物屋の駐車場でたむろしている。そこへ清瀬は、ひるむ素振りもなく近づく。清瀬だけを危ない目に遭わせるわけにはいかない。走たちも急いであとを追った。

ひぐらしの声が、湖畔の空気にわびしく響く。「一人あたり、二人ぶちのめせばいい勘定だな」とニコチャンが指の骨を鳴らし、ムサが足首をまわしてほぐした。東体大の一年生たちが、会話をやめて振り向く。駐車場の真ん中で、両校の選手は対峙した。

「練習の邪魔をするのは、やめてもらいたい」

と清瀬が静かに切りだした。東体大の一団のなかから、榊が割って出てきた。

「そちらこそ、言いがかりはやめてください。俺たちが邪魔をしたっていう証拠でもあるんですか」

「ある」

とユキが言い、ポケットから携帯電話を出して突きつけた。待ち受け画面には、歩道いっぱいに広がって走る東体大生と、その後ろで窮屈そうにしている走の姿が、しっかりと映しだされていた。

「あとでフォームの確認ができるように、と思つてね。そうしたら、おもしろいものが撮れたってわけだ」

「気持ちにはわかるが、携帯は置いてこい」

と、清瀬はユキに注意した。「余計なものをポケットに入れて走ると、それこそフォームのバランスが崩れるぞ」

問題とすべきなのは、そこなのかなあ、と走は思った。ユキの行為も研究ネッシンすぎていやだし、それに動じず、あくまで走ることしか考えていない清瀬も怖い。榊も、あきれたようでも居心地が悪そうでもある表情になった。

清瀬が再び、東体大の一年生たちに向き直る。

「話はそれだけだ。このピンぼけ写真を、きみたちの監督やキャプテンに見せにいくようなことは、俺もできるならしたくない。わかってもらえるとうれしいんだが」

「もちろん、わかります」

と榊は薄く笑った。「東体大は真剣に練習して、箱根を目指してるんですよ。思いつきで走ってるひとたちのことなんか、かまっていられません」

②「気が合うな」

清瀬のこめかみに青筋が浮いたのを、走は見た。「ガキくさいいやがらせで、真剣な練習の邪魔をされるのは、本当に迷惑なものだ」

③ 清瀬と榊は正面から激しくにらみあう。ハイジさん、と走は囁き、なだめるようにそつと腕に手をかけた。  
「真剣の定義がちがうんじゃないかな」

榊は厳しい口調で言った。「勝負してみませんか。そちらの十人と、こっちの一年生十人で湖畔を走って、タイムを競うんです」

あからさまな挑発に、走の脳は沸騰した。榊に向かい、  
「やってやろうじゃないか」

と怒鳴る。榊が走りに打ちこんでいるのはわかるが、だからといって竹青荘の住人たちを侮るのは許せない。榊の態度は、このあいだまでの自分自身の姿を見るようで、不快でたまらなかった。走を押しとどめようと、今度は清瀬が走の腕をつかんだが、それを振り払ってなおも言う。

「おまえは俺に、言いたいことがあるんだろ。だったら俺とおまえで勝負すればいい。俺に勝てないからって、このひとたちを巻きこむのはよせよ！」

「あいつかわらず、蔵原は自信過剰だな」

榊もひるまずに応戦した。いまにも殴りあいのはじまりそうな二人のあいだに、さすがに両校のものが割って入った。ニコチャンに羽交い締めされた走は、まだ息も荒く榊をにらむ。榊もチームメイトに両腕を取られたまま、走を蹴ろうと脚をばたつかせていた。

「勝負なんかしてる場合か？」

走と榊に言いかせるように、清瀬は静かに告げた。「練習に④センネンしろ」

榊はチームメイトから腕を取りかえし、乱れたジャージを整えた。順繰りに、走と竹青荘の面々を見る。

「楽しいか？」

と、榊は低く尋ねた。「やつとできた仲間と一緒に走るの、楽しいか蔵原」

「もういい」

清瀬はさえぎり、榊に⑤を向けた。「帰ろう」

清瀬にうながされたが、走は動かなかった。仲間なんて言葉を、おまえが使うな。怒りと悔しさで、頭の芯が痛むほどだ。

走はニコチャンの羽交い締めから逃れ、榊をにらんだまま、じつと立っていた。榊は言葉をつづける。

「おまえをもてはやしてくれるやつらと、仲良くかけっこできて満足か？」

「ちがう！」

おまえらこそ、俺の速さをもてはやすばかりだったじゃないか。そのくせ、裏には嫉妬とライバル意識が渦巻いていて、俺はあの高校の陸上部が大嫌いだった。表面上は仲のいいふりをして、陰で⑥を引っ張りあうような真似をするおまえらが、ヘドが出るほど嫌いだったよ。

走はそう言いたかったが、憤りのあまり、うまく言葉にならなかった。⑦頭の片隅に、榊になにを言われてもしかたがない、という思いもあった。

俺のしたことが、榊は許せないんだ。耐えろ、と自分に念じ、走は拳を握りしめた。俺のせいで、榊は高校最後の大会に出場できなかったんだから、怒るのは当たり前だ。⑧ニラが吠えてるなあと思って、耐えるんだ。

「いま、仲良くかけっこできてるのに、どうしてあのときはできなかったんだよ。なんで俺たちの努力を無にするようなことをしたんだよ。ちよつと我慢すればいいことだったじゃないか」

無理、耐えられない。ニラはかわいいけど、榊はかわいくねえから！ 榊に畳みかけるように問いただされ、走はあつさり忍耐を放棄した。

「我慢がきかない性格なんだよ、俺は！」

ライオンも逃げそうな気迫で反撃する。俺のほうこそ、「なんで」と言いたい。なんで、あの息苦しくてたまらない部内の空気に、おまえは黙って耐えるばかりだったんだ。言葉が胸にあふれたが、それを口にするまでに、走はいつも時間がかる。走の反撃は、象の行進みたいな榊の勢いに、あっけなく踏みつぶされてしまった。

「いい気になるな蔵原！」

榊は低い声音で一息に言った。「試合に出られなくても、どうせ自分だけは大学からお呼びがかかると踏んでたんだろうけど、残念だったな。おまえは結局のところ、自己中で勝手な……」

⑨「もういい、と俺は言つたはずだが」

清瀬のひんやりとした声音が、サバンナの猛獣合戦といった⑩ヨウソウを呈していた二人を凍りつかせた。走は⑪に

返り、すぐ後ろに立つ清瀬をそっとうかがう。清瀬は氷のような無表情だ。清瀬の背後では双子が、「もうやめとけ」「ハイジさんが爆発寸前」と、身振り手振りで必死に忠告を寄越していた。

走が戦意を喪失したのを見て取ると、清瀬は底冷えのする視線を榊に向けた。

「きみにも言い分があるのはわかる。だが走はいまは、寛政大学の選手だ。無闇に傷つけたり動揺させたりするのは、やめてもらいたい」

今度こそ帰るぞ、と清瀬は「センゲンし、走を林道のほうへ押しやった。Tシャツの裾を引っ張られ、走は清瀬とともに歩きます。」

「榊くんはナニしたわけ、走は」

「さあ？ でもなんか、各方面からモテモテって感じ？」

キングとジョータは、こそこそと「ソウゾウをたくましくする。さつさと来い、と清瀬に言われ、竹青荘の住人たちは駐車場から引きあげはじめた。」

⑧「土壇場でそいつに裏切られないように、あなたがたも気をつけたほうがいいですよ」

榊が投げかけた言葉に、清瀬はちよつと振り返って笑みを浮かべた。

「俺たちがいかに仲良く真剣に走っているか、予選会で見せてあげよう。ああ、でもきみたちは雑用で手一杯で、見る暇がないかもしれないな。ま、頑張つてレギュラーの座を獲得してくれ」

「おとなげないのはどっちだ」

「性格悪いんだよ、ハイジは」

ニコチャンとユキは肩を震わせる。寛政大の陸上部は、レギュラー争いとは無縁だから気楽だ。

「十人しかいない弱小部にも、いいところがあるということです」

ムサは気の毒そうに、悔しげな東体大の一年生たちを見た。

走は、隣を清瀬をうかがった。⑨青筋は消えていたが、なにか考えこんでいるらしく、表情は険しいままだ。また迷惑をかけてしまった。あふれそうになるため息を、必死に飲み下す。

「すみません、ハイジさん」

「きみが謝る必要はない」

やっぱり怒っているのかなと思い、走は「逡巡してから、言葉を選び直した。」

「ありがとう、ハイジさん」

「どういたしまして」

と清瀬は言った。頬のカーブが、さつきよりは柔らかくなっていた。そうか、こういうときは礼を言えればいいんだな、と走ははじめて気づく。ハイジさんは、俺をかばってくれたんだから。憤りと苛立ちが拭い去られていく。気持ちが軽くなった走は、走りだした。

「風呂を沸かしておいてくれ」

と言う清瀬に、片手をあげて返事する。

夜のほうから吹いてくる高原の風に当たっても、走の体はあたたかいままだった。⑩

(三浦しをん作 『風が強く吹いている』より)

※1 竹青荘……走や清瀬ら寛政大学陸上部の部員たちが住んでいるアパート。

※2 ジョング……ジョングのこと。

※3 ニラ……竹青荘で飼われている犬。

※4 予選会……箱根駅伝に出場する権利を争う大会。

※5 レギュラー……チーム内で選ばれて予選会に出場するメンバー。箱根駅伝には各大学十名の選手しか出場できない。

※6 逡巡……迷ったためらうこと。



問一 〓 AとEのカタカナを、漢字に直してていねいに書きなさい。

問二 …… a「■を向けた」・b「■を引っ張りあうような」・c「■に返り」の■に入る最も適当な漢字一字を、それ  
ぞれ書きなさい。

問三 ①「榊も、あきれたようでも居心地が悪そうでもある表情になった」とありますが、榊がそのような表情に  
なったのはなぜですか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちはいやがらせなどしていないと証明しようとしたところ、清瀬がユキにフォームの指導を始めたため呆気に  
とられたから。

イ 自分たちのいやがらせに対し仕返しをされると恐れていたところ、清瀬がユキの携帯電話に関心を示していることに  
安心したから。

ウ いやがらせだと清瀬に決めつけられてなじられたことに腹を立てていたところ、清瀬がユキとふざけはじめたことを  
軽蔑したから。

エ 自分たちのしたいいやがらせをとがめられると身構えていたところ、清瀬がユキの行為を注意しはじめたのを見て拍  
子抜けしたから。

問四 ②「気が合うな」とありますが、この時の「清瀬」の気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エの中  
から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 榊の発言は許し難いものだが、名門校である相手のことを付度して、事態をまるくおさめようという気持ち。

イ 練習に励む仲間たちを見下し、いやがらせを重ねる榊の卑劣な態度を、皮肉により非難しようという気持ち。

ウ 東体大の監督やキャプテンに、榊たちのいやがらせを告げ口するような、卑怯なことはしまいという気持ち。

エ 強がる榊があわれに思われて、関わり合いたくない相手だと思いつつも、上手くつきあおうという気持ち。

問五 ③「真剣の定義がちがうんじゃないかな」とありますが、榊のいう「真剣の定義」とはどのようなものですか。  
その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どんな条件でもよい結果を残すために、集中して練習すること。

イ 厳しい目標を達成するために、自己流の練習計画をこなすこと。

ウ 高い目標を成しとげるために、計画的に練習に励んでいくこと。

エ 全ての競走に勝つために、与えられた練習計画を実行すること。

問六 ———— ④「順繰りに、走と竹青荘の面々を見る」とありますが、この時の「榊」の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 走のように速い選手が竹青荘の中にいるかどうかを、しつかり見定めようという気持ち。
- イ 走の過去も知らないで仲間として受け入れた竹青荘の選手たちのことを、見下す気持ち。
- ウ 初心者ばかりの竹青荘の仲間にもてはやされて調子に乗っている走を、あわれむ気持ち。
- エ 勝つ見込みのなさそうな竹青荘の選手たちと共に箱根を目指す走を、ばかにする気持ち。

問七 ———— ⑤「頭の片隅に、榊になにを言われてもしかたがない、という思いもあった」とありますが、「走」がこう思ったのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 高校時代からすぐカッとなって暴力をふるってしまふ自分の性格を榊に指摘され、反論できなかったから。
- イ 自分のせいで試合に出られなかった榊が自分のことをうらむのは、仕方ないことだと思っていたから。
- ウ 自分が竹青荘の選手たちと仲良く練習していることに、榊が腹を立てるのは当然だと思ったから。
- エ 榊のように自分の考えを正確に言葉で表現し伝える力がないことを、認めざるをえないから。

問八 ———— ⑥「象の行進みたいなの榊の勢い」とありますが、これは「榊」のどのような様子を表していますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア だれにも止められない気迫で圧倒する様子。
- イ 厳しい言葉で少しづつ走を追いつめる様子。
- ウ 自分の心の中をありのままに告白する様子。
- エ 重々しい言葉を重ねて思いを表現する様子。

問九 ———— ⑦「もういい、と俺は言ったはずだが」とありますが、この時の「清瀬」の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しつこく高校時代の出来事を持ち出し走を追いつめる榊の態度に、強い憎しみを覚えている。
- イ 榊のいやみにもすぐ反応する走の短気なところに、仲間ではあるものの失望感を抱いている。
- ウ 過去の出来事でいつまでもいがみ合っている走と榊の幼稚な態度に、いらだちを感じている。
- エ お互いの仲間を巻き込み喧嘩をやめようという走と榊の乱暴な様子に、あきれていている。

問十——⑧「榊が投げかけた言葉に、清瀬はちよつと振り返つて笑みを浮かべた」とありますが、「清瀬」が「笑みを浮かべた」のはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 榊の忠告は確かに正しいけれど、今の走はもはや昔の走ではないと確信を持っているから。  
イ 榊の忠告は的外れであるうえ、逆に榊たちの泣き所を突くきつかけとなる内容だったから。  
ウ 榊の忠告は全くの見当違いであつて、それでもなお強がり続ける榊を気の毒に思つたから。  
エ 榊の忠告はむしろ榊自身にはね返っていくだろうことを見抜き、いい気味だと思つたから。

問十一——⑨「青筋は消えていたが、なにか考えこんでいるらしく、表情は険しいままだ」とありますが、この時の「清瀬」の気持ちを、自分の言葉でわかりやすく説明しなさい。

問十二——⑩「走の体はあたたかいままだった」とありますが、その理由を走の気持ちにふれながら、自分の言葉でわかりやすく説明しなさい。

\*問題はここまでです。

|                                                                                                                                                                          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|                                                                                                                                                                          |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> </div> |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <div> <div>問十</div> <div>問九</div> <div>問八</div> <div>問七</div> <div>問六</div> <div>問五</div> <div>問四</div> <div>問三</div> <div>問二</div> <div>問一</div> </div>                 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <div> <div> <div> <div>II</div> <div>I</div> </div> <div> <div>1</div> <div>2</div> <div>3</div> <div>4</div> </div> </div> </div>                                       |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|                                                                                                                                                                                        |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|                                                                                                                                                                                        |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> <div>*</div> </div>               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <div> <div>問十二</div> <div>問十一</div> <div>問十</div> <div>問九</div> <div>問八</div> <div>問七</div> <div>問六</div> <div>問五</div> <div>問四</div> <div>問三</div> <div>問二</div> <div>問一</div> </div> |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <div> <div> <div>a</div> <div>b</div> <div>c</div> </div> <div> <div>A</div> <div>B</div> <div>C</div> <div>D</div> <div>E</div> </div> </div>                                         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

氏 名

受 験 番 号

得 点

\*